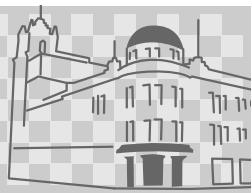


特集

# はこまち対談



「ひと」とかかわっていきたいです。

Part  
36

今回は、まちづくり活動などに積極的に飛び込んでいる、北海道教育大学函館校3年の古館さんにお話を聞きしました。

## 古館 琴さん

## ◆プロフィール

青森県八戸市出身。北海道教育大学函館校3年。  
高校時代は表現科に所属しダンスや演劇などと関わったことから、アートによるまちづくりに興味がある。  
2016年に開催された、大門合同学生祭実行委員長。この夏、八戸のボランティア集団「まちぐみ」でインターン。観光ボランティアの勉強もしている。



【聞き手】地域交流まちづくりセンター センター長  
丸藤 競(まるふじきそお)

丸藤：地元は八戸と聞いてますが、なぜ北海道教育大学函館校に入学することになったのですか？

古館：観光まちづくり論という授業があることを知つて興味を持ちました。実は、今のゼミの先生がその担当だったんです。これは最近知つて驚いているんですけど。

丸藤：まちづくりには、いつ頃から興味を持ったのですか？

古館：母方のおばあちゃんが、地域で色々なことをやっていたんですね。公民館活動や町内の運動会とか。おばあちゃん子だったので毎日のように会つていて興味を持つようになつたんだと思ひます。

丸藤：八戸では、まちづくりが盛んなんですか？

古館：まちづくりや観光交流の拠点になつてゐる「はつち」という施設が2011年にできてから、色々な活動が増えてきて盛んになりました。

丸藤：「まちぐみ」は有名ですよね。

古館：まちを面白くしようとしているボランティア集団です。組長さんと言われているリーダーを筆頭に活動しているのですが、組長さんは凄くゆるい人です(笑)。

丸藤：どんな集団なんですか？

古館：はつちが管轄している集団です。でも、組員というか仲間が、できることや得意なことを出し合ひながら活動しています。将来の自立に向け、八戸の伝統的なものを使った商品開発とかもしています。はつちから徒歩5分くらいのところの町の中にある家を借りてコノベーションして、活動拠点にしています。そういうのTシャツを買って、あとはちょっと書くものがあつてそれで入れました(笑)。

古館：「函館」「まちづくり」で検索すると出てきて、大学の4年間つて長いようで短いじやないですか、何もしなかつたら意味ない4年になりそうだなと思ったので、突撃してみました(笑)。

丸藤：自分のことを絵に描いて持ってきたんですよ。突撃してみて、どうでしたか？

古館：凄いありがたかったです。いい経験になりました。絵は、活字の資料よりインパクトがあるかなと。

丸藤：確かに凄いインパクトでした(笑)。他にも突撃したそうですね。

古館：有名人じゃないので、自分から動かないと「ネクション」も生まれないし、と思つて。確かに、よく考えると、悪い突撃しているような気がします。(笑)

丸藤：突撃された方は、どんな感じですか？

古館：自分には思いつかないところをアドバイスしてくれたり、調べても分からぬようなことを教えてくださつたりで、悪い勉強になります。大人の方からいただける情報は多いです。

丸藤：組織のリーダーをやることが多いみたいですね。

古館：中学は生徒会の副会長、高校は会長でした。市内の大学生が合同で行う大門祭の時も委員長でした。まとめるのは大変です。会議の仕方の本をたくさん読みますが、どうすればいいのか分からぬことがあります。まあ、今の段階では半分成功すればいいかなと思っています。

丸藤：函館のまちの印象は？

古館：風が強い。それと、海が目の前なのに海っぽい匂いがしなくてビックリしました。八戸は、もっと潮の匂いがします(笑)。

丸藤：観光については？

古館：函館の観光は、全部通り見て

古館：有名人じやないので、自分から動かないと「ネクション」も生まれないし、と思つて。確かに、よく考えると、悪い突撃しているような気がします。(笑)

丸藤：突撃された方は、どんな感じですか？

古館：自分には思いつかないところをアドバイスしてくれたり、調べても分からぬようなことを教えてくださつたりで、悪い勉強になります。大人の方からいただける情報は多いです。

丸藤：組織のリーダーをやることが多いみたいですね。

古館：中学は生徒会の副会長、高校は会長でした。市内の大学生が合同で行う大門祭の時も委員長でした。まとめるのは大変です。会議の仕方の本をたくさん読みますが、どうすればいいのか分からぬことがあります。まあ、今の段階では半分成功すればいいかなと思っています。

丸藤：まちづくりの方は？

古館：まちづくりも「人」だと思つています。八戸は人が面白いから住むようになつたと、まちづくりの組長さんが言つてたように、色々な面白い人が集まっています。八戸は受け入れてくれ、る環境になつています。函館も、そつなればいいですね。

丸藤：函館には面白く人はいますか？

古館：けつこうきつかりした人が、一生懸命まちづくりをやつているように思います。服装も、八戸のようによるくはなくて、ファッショナブルな感じですね(笑)。

丸藤：今は、居場所を研究テーマにしてるんですね。

古館：そこに関わつて、くぐつたじ、まちのことが好きになつていて、外に出ても振りかえられるよ

まれわちやうといろが良い面でもあり、悪い面もあるなと感じています。あと、人に会いに行くというのがキーワードだと思っていて、ワールドワークなどでお店の名前の由来とかを聞いたのですが、凄く面白かったです。やはり、人と話すことは大事で、観光にもそういう要素があつてもいいのかなと思つてます。

丸藤：まちづくりの方は？

古館：まちづくりも「人」だと思つています。八戸は人が面白いから住むようになつたと、まちづくりの組長さんが言つてたように、色々な面白い人が集まっています。八戸は受け入れてくれ、る環境になつています。函館も、そつなればいいですね。

丸藤：まちづくりの影響が大きいですね(笑)。

古館：八戸って、なんかゆるさを認めしているところがあるんです。それに、飲んでいても悪口大会ではなくて、ポジティブなれるんです。組長さんも、やついうといろが好きだと言つてました。

丸藤：函館がこうなつてじけばば、とうのはありますか？

古館：高等教育機関がたくさんあるので、わつと横のつながりが強くなつていけばいいなと思います。

丸藤：函館がこうなつてじけばば、とうのはありますか？

古館：高等教育機関がたくさんあるので、わつと横のつながりが強くなつていけばいいなと思います。

丸藤：将来に向けとは？

古館：まちづくりに闘わる場所で働くたいです。いろんな思いがある人が集まるようなところで、人とかかわつていきたいです。そこで、自分自身が成長します。そこで、自分自身が成長し、化学変化がおきていくことを楽しめたいです。まちづくりセンターも、希望のひとつです。

丸藤：それは嬉しいですね。「働かせて！」と叫べば、実現するかも知れないと(笑)。

古館：ありがとうございます。色々つけています。まちづくりが、それに近いのかもしれません。色々な人を受け入れるゆるい感じが、凄くいいんですよ。

古館：ありがとうございます。色々つけています。まちづくりが、それに近いのかもしれません。色々な人を受け入れるゆるい感じが、凄くいいんですよ。